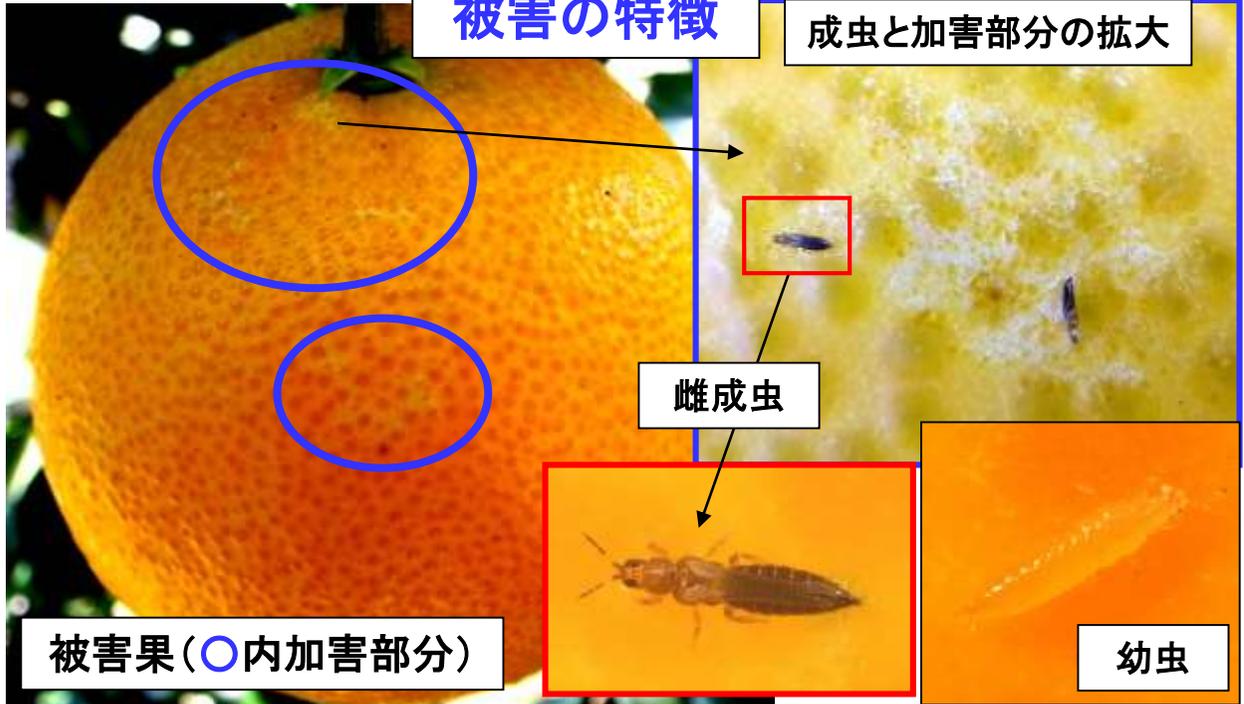


‘紅まどんな’で問題となる病害虫(ハナアザミウマ)

‘紅まどんな’の着色期以降の果実を加害するアザミウマ類には①ハナアザミウマ②ミカンキイロアザミウマの2種がいる。ここでは、ハナアザミウマによる被害の特徴と防除のポイントを紹介する。

被害の特徴

成虫と加害部分の拡大



被害果(○内加害部分)

雌成虫

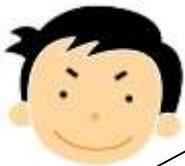
幼虫

写真 ハナアザミウマによる‘紅まどんな’果実被害の状況(平成25年10月29日撮影)

注)10月22日に果実をネットで被覆し、ハナアザミウマ成虫を10頭放虫→7日後の果実の状況。

防除のポイント

1. 主な発生時期:10月中旬～収穫期
2. 防除時期
成虫の果実での寄生を確認後すぐ
3. 有効薬剤(希釈倍数)
 - ・スピノエースフロアブル(6,000倍)
 - ・ディアナWDG(10,000倍)
 - ・オリオン水和剤40(1,000倍)



着色期以降に成虫が飛来し、寄生する。油胞を避けて、加害し、その部分は、白いかすり状の被害となる。多発すると、幼虫も見られるようになり、それらの加害により、油胞が潰れ、腐敗の原因となる。着色が進むほど、虫の寄生も多くなる。



・発生量、時期は年次間差大
・着色の進んだ果実同士の隙間を好むため、その部分をよく観察
・幼虫が多発した場合には被害が甚大になるため、成虫を確認したらすぐ防除！！